

平成 27 年度第 2 回意見交換会 議事要旨 (学校体感デー参加者と教育委員との意見交換会)

1 日時

平成 27 年 11 月 12 日 (木) 15:20~16:20

2 会場

緑町中学校 2 階 図書室

3 出席者

- ・学校体感デー参加者 24 人
- ・教育委員 6 人

4 意見交換会テーマ

テーマは設けず学校体感デーの実施プログラム（給食試食、授業見学、電子黒板使用体験）を体験して感じたことや、日頃疑問に思っていることなどを自由に意見交換した。

5 会議経過

- (1) 開会
- (2) 教育委員長挨拶
- (3) 意見概要（教育委員の発言者は次のように標記。中野委員長「委員長」、内山委員「内山委」、和田委員「和田委」、明石委員「明石委」、小西委員「小西委」、志村教育長「教育長」）

電子黒板などについて

[参加者]

9 年前から電子黒板を使っているようですが、それにより生徒の学力などは上がったのでしょうか。また、生徒の人間性などは良くなっているのでしょうか。

[緑町中学校長]

電子黒板を使うことは、どういう学力を捉えるかということになると思います。

例えば、数学で平均 50 点だったものが 60 点になったのかということ、必ずしもそうとは言えません。求めている学力の質が今は変わってきています。私は、子どもたちが電子黒板を使って、どういうところでそれを生かせるのかという力をつけたいと思っています。そして、いろいろな力がついてきていますので、個々の能力は高まっていると思います。

[参加者]

私は、先程の授業を見てプレゼンテーション力、発信力、考えをまとめる力などは確かに伸びていると思いますが、それが全然生きていないと思います。人間的にむしろ落ちてきているという感じがしてなりません。そのあたりはどうでしょうか。

[明石委]

今のご質問は、あることを行った時に使用前と使用後のエビデンスというデータを取っているかということだと思います。電子黒板を使っている轟町小学校と緑町中学校は、データを出していかなければならないと思います。それは非常に大事な御指摘です。

[参加者]

授業を見ていて、グループ分けして発表もありましたが、どういった基準でグループ分けをしているのでしょうか。授業を見ていると発言者が偏っていました。電子黒板によって、明らかに効率は上がっていると思いますが、生徒の考える力に結びついていないように思いました。そのあたりはどうでしょうか。

[明石委]

電子黒板を使うとどういう学力が身につくのかということは、相当複雑で分析が難しいため、これからの検討課題だと思います。個人的には「読む力」は、電子黒板やパワーポイントを使うと、分かりやすいから理解度は上がるけれども、それを応用したり活用したりする力まではつきにくいだらうという仮説を持っています。

今後、教育センターを中心にそういった研究をしていただきたいと思います。

[参加者]

私は数学の授業を中心に見ていました。確かに「時代は変わった」と思います。

今の子は恵まれているのか、いないのかは判断できないと思います。つまり、いいものができるのと失われるものもあると思います。すべて、パワーポイントなどを使って授業をすると学生が寝てしまうといった話を聞くと、使い方によっては必ずしも成長を促さない部分もあると思いました。

電子機器を使った情報の提示や授業の進め方は、物事を単純化して分かりやすくなりましたが、思考が一方からしか与えられずに、皆そこに誘導されてしまうのではないのでしょうか。不正解もその生徒の思考としてもっと引き出す必要があり、それが「考える力」だと思います。自分がいいと思う回答だけで生活、社会が成り立っているのではない。いろいろな角度から幅広く見ることができて、そういうところに生活があり、考え方があり、個々の違いがあるという見方や視点を取ってしまっているのではないかという部分がデメリットとして考えられると思います。そのあたりはどうでしょうか。

[教育長]

今回、電子黒板を取り上げたのは、電子黒板を皆さんにご理解いただきたいと思ったためです。電子黒板は、あくまでも情報を提示するための新しい形の機械に過ぎません。

今日の理科の授業では、イカの解剖を行いました。イカの解剖映像を電子黒板に映して説明をすれば、電子黒板だけで全てを捉えることはできます。しかし、解剖をデジタル化してしまっただけでは駄目なのです。匂いや手触りといったものは、電子黒板では体験できません。ですから、ある時間は電子黒板を使い、ある時間は生のものを触って五感を通して学ぶなどしてひとつの学習を作っていく、学校ではそういった工夫をしています。

かつて、学校は町で一番文化性度が高い環境でしたが、いつの間にか逆転してしまいました。例えば、家では洋式トイレですが、多くの学校がまだ和式トイレであるといったことなどです。つまり、生活スタイルが変化するなか、学校が追い付いていない状況があります。そういった部分では、これから先、子どもたちがこの時代に一番あった形での生活を、どうやって考えていくかということが必要だと思えます。

また、学校では、集団でいろいろなことをする体験を充実させなければいけないと思っています。グループで代表の子どもだけではなく、みんながどうやって取り組んでいったらいいのかということについては、私どものこれからの課題であると思っています。

[参加者]

数学の授業を見ましたが、とても上手く電子黒板を取り込んでいて、限られた時間のなかでまとめていたし、最後の発表も私は好感をもって聞いていました。

生徒側もまとまりがあって非常に良かったと思います。あの子たちが今後、若い世代として日本を担っていくので頼もしいなと思いました。その頼もしい人材を創出している、この学校の取り組みに拍手したいと思います。頑張ってください。

[参加者]

今日、国語の授業の参観をしましたが、教室の後方から見たので、私は電子黒板に書かれた字がほとんど見えませんでした。今、子どもたちは電子機器を使って、視力がどんどん落ちていくと聞いています。そうしたことから、電子黒板の画面がもっと大きくなるかなと思います。電子黒板は、視力が弱い子への対策はあるのでしょうか。

[教育センター主任指導主事]

電子黒板は文字を拡大できます。子どもから「文字が見えない」という声があった場合、先生は対応しています。また、市で導入している機器は数年前のものなのでこのサイズですが、最近ではもう少し大きな電子黒板も出ています。また、プロジェクターとして黒板に広げて映すタイプの電子黒板機能付きのものも出ています。

広報について（イベントについて）

[和田委]

多くの方に情報をどうやって届けるか、どうやって参加していただくかということは、一番の課題であると思っています。今日は折角の機会ですので、一体どのようにしたら、このようなイベントに積極的に参加していただくことができるのか、是非、皆さまのアイデアをお聞かせいただきたいと思います。よろしくお願いします。

[参加者]

今回、緑町中学校に入る予定の世帯にはすごく興味があるのではないかと考えていましたので、参加してみたら「知っている人がいない」と思ってびっくりしました。

今週末、学校ではバザーがあり、お母さん方はバザーの準備です。そういった意味ではイベント実施日は、地域行事との兼ね合いも大きいのではないかと考えました。

[参加者]

青少年育成委員会や相談員のほか、ボランティア団体に声掛けを行うなど、もっとPRしても良いのではないかと考えます。

学校間格差について

[参加者]

緑町小の校舎は、本当に立派に建替えられていました。私は緑町中の卒業生ですが、中学の校舎は全然変わっていないと思いました。理科教育についても、おそらく緑町小学校のようなところは、多くないと思います。また、電子黒板も活用されている学校は少ないと思います。市の学校数は170校近くあり、施設等については限られた予算で難しい面があると思いますが、指導については予算がなくてもできる部分があるので、なるべく学校間格差がないようにお願いしたいと思います。

[参加者]

今回、緑町小の取組みを見て、とてもびっくりしました。こんなに恵まれた環境で学習することができて羨ましいと思ったのが正直なところです。

自分の子どもには少しでも良い教育を受けさせたいと思う気持ちはみんな同じだと思います。すべて同じレベルでの教育を受けさせることは、無理難題と承知していますが、そういった格差が少しでも無くなるような工夫を考えて頂けたらと思いました。

[明石委]

非常に大事な御指摘だと思います。市には多くの学校がありますが、正直に申し上げまして学校間の差はあります。文部科学省の学力テストでは、この3年間でずっと伸びてい

る学校、伸びて落ちる学校、落ちている学校があります。

しかし、千葉市の教育委員会のすごいところは、この学力テストについては、すべてデータを発表し、このデータに基づいてチームを作って学力を伸ばしていくということを今検討しています。すぐに課題解決ということは、難しいかもしれませんが、どこに原因があるのかということデータを基つき、家庭・地域・学校の力で子どもの学力を伸ばすということを行っています。

[教育長]

東日本大震災後は、すべての学校を地震で絶対崩れないものにすることが最優先になりました。子どもたちの命もありますが、市民の避難所にもなっているためです。

その方向転換前に改築計画があったのが緑町小と轟町中です。それ以外の学校は、改築をする話が計画的に進んでいたのですが、耐震化を最優先にしたため、財政上、改築は無理ということになってしまいました。校舎の格差は無いようにしたいと思っていますので、できる範囲で子どもたちが安全で快適に過ごせるように進めていきます。

また、学習における格差については地域格差があります。例えば、家庭環境が違うなど、いろいろな状況のなかで 112 校の小学校が同じ環境ではありません。

それぞれ学校の実情に応じて整えて、同じようにできる部分と同じように出来ない部分がありますが、人員を増やしたり、先生を増やしたりするなど教育委員会でさまざまな形で工夫をして、できるだけ格差を無くすよう努力しています。

[和田委]

教育長の話に付け加えさせていただくと、皆さんも御存知かも知れませんが、先生方は夏休みや授業が終わった後、かなり研修を積んでいます。素晴らしい授業をする先生の授業を観たり、いろいろな方の講演を聞くなど先生方も一生懸命、自分のスキルアップに努めています。そのあたりを是非、御理解いただきたいと思います。

今後、千葉市は若い先生が増えていきます。行き届かないところもあるかもしれませんが、是非、保護者の皆さまには、先輩として先生方の応援もしていただき、足りないところは御指導をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

[参加者]

私は越智小で評議員や見守りウォッチャーをしています。越智小は一学年一クラスであるため、「次に廃校になるのはうちかしら？」なんて言い合っている学校です。

それでも、子どもたちは本当に素直で縦割りがとてもうまくいっています。そういう意味では、子どもたちの心を育てる環境はとっても良いです。

一方、学力面は競争するという環境に欠けていることから、先生方もいろいろと工夫をしていると思いますが、とても苦労しています。

郷土教育について（千葉市の魅力）

[参加者]

私は、千葉市中央区で生まれ、育ち、ずっと千葉市で生活してきました。

給食では、ほかの学習と絡めて「千葉市の文化を学べる機会を創出している」ということでしたが、学校給食だけでなく、いろいろな教科と千葉市の歴史・文化を絡めていただき、子どもたちにもっと千葉市を好きになってもらえるような機会を創出していただければと思います。そのことで、千葉市がもっと盛り上がっていくと思います。

千葉市に生まれて、今まで住み続けて、自分も千葉市を好きになりました。子どもたちにもそういった機会を創出することを継続していただきたいと思います。

[委員長]

現在、市では「千葉市を日本のシアトルに」といった取組みを始めています。シアトルでは市民のほとんどが救命救急の実習を受けており、救命活動がすぐ出来るため、突然心臓発作で倒れた人が社会復帰できる確率がおおよそ 50%だと言われています。

それに対して、千葉市では社会復帰する確率は 1%以下、区によっては 0%と言われていました。しかし、それではいけないということで、命を守る教育推進プランとして、小中学校で救命救急の実習を始めました。それがどんどん広がり、今後、少なくとも小学校で 1 回、中学校で 1 回、救命救急の実習を受けることになりました。

千葉市が本当に住みやすくなるという意味も込めて、学校では今後もこの取組みを進めていくと思います。なかなか自分の学校で救命救急の実習がないようでしたら、「早くやってください」と、学校に要望していただけるとありがたいと思っています。

給食について

[参加者]

私は、本当に食べ物の無い時代に育ってきた人間なので、今日の給食は「素晴らしく変わった」と思いました。栄養学的にも申し分のない組み合わせで材料を使い、味付けも薄味で、野菜たっぷりで作っていて、本当に素晴らしいと思います。非常にこれだけ総合的に手落ちのないようにやってくれていることに感動いたしました。

[参加者]

給食は、千葉県内でも市によって違いがあるのでしょうか。

私は県内の N 市から引っ越してきました。少し前にその N 市で給食を食べましたが、N 市は財政が豊かなところですが、給食は不味かったです。デザートがついて品数は多かったですが、和食あり、洋食ありでデタラメな感じがしました。

千葉市は和食中心で整っていて、良かったと思います。とてもびっくりしました。

[保健体育課補佐]

今日は給食を試食いただきありがとうございました。栄養職員を含め学校職員全体で限られた費用の中で精いっぱい給食を提供しています。値上げの話などいろいろとありますが、今後ともよろしくお願いします。

そのほか感想など

[参加者]

私は岩手県の貧しい村で生まれて、学校給食はありませんでした。進駐軍から配達されるスキムミルクで、「とにかく栄養を補わなければ」という時代だったので、学校給食をいただくということが、生まれて初めてのことでした。

公民館にこのイベントのチラシがあり申込みを行い、抽選に外れるかもしれないと思って、毎晩当選するように祈っていました。本当に今日は当たって幸運でした。

[参加者]

昔は、ピアノはもちろん、オルガンが学校に1台あればいいほうで、生徒に触れられて壊されてはいけないと鍵をかけていました。教科書もマッカーサーの意向に反したものを墨で消した教科書を使っていたため、歴史は教わりませんでした。何もかもが無い中で育ってきました

今日は理科のイカの解剖と、国語の授業を見ましたが、我々が経験したものとは天と地ほど違っていました。出来ることならば、これからでも小学校や中学校で、子どもたちと机を並べて経験させてもらいたいというのが正直な気持ちです。今後も何かこういった機会ありましたら、また覗き見させてください。ありがとうございました。

[内山委]

時代や子ども達を取り巻く環境が変わったと思います。私が子どものころは、従兄妹や叔父叔母がたくさんいて、とても心豊かな時代だったと思います。

それだけに、皆さんが学校や子どもたちにもっと関心を寄せていただいて、学校の体育で体を鍛え、授業で心を鍛え、子どもたちを見守っていくという意味で、皆さんにもこのような機会や運動会、地域の授業参観で学校にお越しいただき、子どもたちの様子を見守ってほしいと思います。

私も出来る限りのことをやろうと思いますが、みんなで力を合わせなければいけません。

ぜひ、いろいろな場面に顔を出していただいて、子どもたちを見守っていただければと思います。よろしくお願いします。

(4) 閉会